

平成 21 年度 第 1 回 平塚市博物館協議会 会議録

開催日時

平成 21 年度 5 月 19 日（火）10 時～12 時

開催場所

平塚市博物館 特別研究室

会議出席者（敬称略）

会 長 江藤 巖

委 員 片山 興大、立山 洋典、牧野 久実、村松 芳男、森島 啓子

事務局 明石館長、井上館長代理、鷹館長代理、栗山学芸員

会議の概要

- 1 開会あいさつ
- 2 委嘱状交付
- 3 自己紹介
- 4 館長あいさつ
- 5 会長あいさつ
- 6 議 題

（ 1 ）事業報告について

事務局から協議会説明資料により説明。

〔 質疑応答 〕

委 員：銀河鉄道のプラネタリウムが人気を呼びましたが、今後も美術館や図書館とのコラボレーションなど、地域をあげて取り組んだ活動が大事では、と感じます。

事務局：予想外に市外からも多くの方に来ていただきました。七夕以外にふだんの街のたたずまいを見ていただいて、平塚のイメージアップをはかる良いチャンスになりますので、これからも意識的に取り組みたいと思います。今年の夏も、「いわさきちひろ展」を開く美術館から、博物館も一緒にと声を掛けられていますので、ちひろの作品の演劇や読み聞かせなどを考えています。銀河鉄道のようなメガヒットは難しいと思いますが、またお知恵を拝借したいと思います。

事務局：厚木のプラネタリウムでも銀河鉄道を上映していました。機会があれば担当者に反響を聞いてみたいと思います。

事務局：銀河鉄道は、プラネタリウムの定番プログラムとして用意してもいいかなと考えています。観覧客の層として、もっと小・中学生に見てもらいたいと思います。それも卒業の時期など、落ち着いた状況で人生を考えられるような時点で見ると良いのではないかと思います。ただ、上映権が高いので、今の博物館の財政事情では厳しいですが、考えていきたいと思っています。

委 員：宮沢賢治は小学校五・六年生の教科書でも扱っていてタイムリーでした。平塚市は花巻との姉妹都市関係もあり、生い立ちの現物資料を持って来るなど、連携ができるの

ではないでしょうか。学校から見学に行き、目や耳を通して子供たちの頭に残ったものから、更に学習をふくらませることができます。小・中学生を対象に博物館・美術館・図書館がいろいろ考えていただいて、学校としてありがたいと思います。

委員：宮沢賢治は大人にも子供にも魅力的なことが盛り上がった理由の一つだと思います。大人にも子供にも魅力的なテーマを考えていただきたいです。市外からの集客という点で、美術館はTV・新聞でも良く取り上げられていますが、博物館ももっと活動をPRされてはどうでしょうか。

委員：大きなテーマを新たに、というだけでなく、例えば今年の夏期特別展はガリレオがテーマですが、美術館・図書館と相互に結び付きができる、ということも大切だと思います。過去にも、美術館の帰りがけに博物館に寄った方が、「すごい」「見学して良かった」と喜んで帰られるということを経験しています。宮沢賢治の時のように、館が相互に紹介し合い、お客さんに見学して回ってもらえるような動機付け・機会を作ることが必要ではないでしょうか。それが良い効果を生んで、見学者を増やし、地域の文化力をもっと高めることになるとと思います。

委員：子供をメインにしながらか大人も楽しめるようにすることが、入館者を増やすことにつながるのではないのでしょうか。

事務局：最近子供が友達どうして来るのが難しくなったのか、親子連れでの来館が増えています。大人向けに、自分達が分かればいいという展示にならないように、親子で楽しめるものを考えていかなければならないと思います。

委員：普及活動のなかで、土屋子ども探検隊など、一回で終わっているのはどうしてですか？

事務局：これは、土屋公民館が主催して博物館が参加したものです。市の総合計画に基づく自然観察園について、地元の協力と理解をいただいて、より進展させていきたいという意味合いで、回数が少ないのですが、土屋公民館と共催の形で行っています。併せて、自然観察ゼミナールと自然観察リーダー入門も行っています。

委員：公民館とのタイアップも大事ですね。

委員：最近、公民館で博物館の先生方を招いての活動が、少なくなっているのではないのでしょうか？

事務局：昔は公民館まつりの機会に、出前博物館として生物部門が行っていました。最近は公民館活動が盛んで部屋の確保など調整が難しい状況です。ご要望があれば積極的に動きたいのですが、今は各担当の仕事が手一杯で難しい時期に来ています。

委員：平塚市民も、もともと平塚にお住まいの方が圧倒的に少なくなりましたから、平塚を見直そうというテーマで、博物館や美術館が平塚の文化・文化人などを一つずつ取り上げることで、また新しいものが生まれるのではないかと思います。余りにも平塚を知らない方が多いので、平塚市のPRにもなるとと思います。

委員：県・市の企画ではなく、博物館や美術館が主体にというのは、ちょっと負担が多いように感じるのですが。

事務局：昨年度の金目川の博物誌のように、博物館の各部門共同の企画展を何年かごとに行ったり、また基本的な博物館の使命として、市民とともに新たな資料・情報を掘り起こして発信していければと思います。もう少し時間をいただければ、また新たな飛躍ができると思っています。

委員：私が金田地区の歴史再発見事業に参加するなかで、機動力のある博物館の学芸員から大きなご助力をいただきました。お忙しいなか、きめ細かく地道な活動をされ、地域文化向上のために大いに寄与されていると思います。

委員：この3年に及ぶ歴史再発見事業の成果をそのままにしておくのはもったいないですので、教育委員会が特別展示室などを借りて発表すれば、皆さんが興味をもって来館されると思います。

(2) 平成21年度の予定について

事務局から協議会説明資料により説明(5月6日実施のこどもフェスタ開催結果を含む)。

[質疑応答]

委員：子どもフェスタの博物館クイズの参加者数は、こども数103、大人0ですが、ほとんど親子連れのため、プラス100と考えていただければと思います。

委員：子供にとっては、じっと集中することよりも、直接さわれる・作れるというような、自分が参加できるイベントがいいようですね。

委員：ガリレオ展の『天文対話』初版本や太陽活動をさぐる展示など、専門的な資料については、その重要さ・意義について、一般の方や子どもがわかりやすいように工夫する必要があると感じました。

委員：今、ガリレオを扱った映画も上映されているので、若い人がたくさん来るのではないのでしょうか。

委員：ちょうど開催時期が子どもの夏休みになりますが、天文の展示の焦点をどこに当てるのが大切だと思います。平塚周辺の地盤展は大人に好評でしたが、五領ヶ台貝塚展のクイズのように、子ども達の宿題に対応できるような展示になれば良いと思います。ガリレオの望遠鏡を作るということで、先日、新聞でも紹介されていましたが、いろいろ情報を発信していくことで、興味をもってもらえるのではないかと思います。

委員：月からの隕石資料は借りられなくなったのですか？

事務局：この時期、借りの要望が多くて借りることができませんでした。展示内容の難しさの問題ですが、ガリレオの宗教裁判も有名な絵画を題材にしたり、天動説も館内の天文展示よりわかりやすい解説にしたいと思います。ガリレオ以後の大きなパラダイム変換など、説明不足になる恐れもありますが、網羅的に全部取り上げることで、その後の科学の進展の凄まじさやパワーというものを展示で出していきたいと思っています。目で見えるような体験的なものを取り入れていこうと考えています。中学生にわかる内容を意識して易しい説明をめざすつもりです。できるだけギャラリートークなどを心がけますが、展示解説ボランティアのご協力をお願いしたいと思います。

(3) その他

委員：子どもフェスタの古代生活体験は、学校への出前講座が可能でしょうか。

事務局：要望があった場合、可能な限り極力対応することにしています。

委員：そうした機会を活用できれば、博物館の活性化にもなりますし、小学校も授業で活用できるのですが、そうした出前授業などについて知らない教員もいますので、校長会でも話をしたいと思います。

事務局：考古部門のほかに、他の部門も活用していただければと思います。

委員：学校は3月・4月までに遠足や博物館見学の日程を決めますので、前もって博物館の行事予定を教えていただければ、校長会などを通してPRができると思うのですが。

委員：プラネタリウムなど、小学生団体の観覧はどういう位置付けですか？

委員：校外学習、理科の学習などでも行います。遠足などで総合公園から美術館・博物館に寄って、という予定を立てる時、イベントに合わせる事が出来ると思うのですが。

委員：横浜では県の青少年センターに必ず見学に来てもらうようにしていました。平塚にはこうした地域に密着した博物館があるので、子どもの時に学校で一度は見学に行ったという経験ができれば、あとでその効果が活かされて、継続して利用するのではないかと思います。

委員：市内の小学生は美術館・博物館・図書館など、一度は必ず来ていると思います。予定が分かれば、授業に直結した形で、イベントに合わせて計画を立て、体験させることができます。

事務局：先程の博物館の事業計画についてですが、遅くとも2月終わりから遅くとも3月の頭には日程が決まります。

事務局：ご要望を部長会議にかけて、他館も含めた全体の年間スケジュールを学校に配布できるようにしたいと思います。

委員：土日での親子連れの入館者増加ということでしたが、大学の生涯学習の仕事では、平日10時から3時までに設定すると、大変たくさんの方が来てくださいます。博物館の古文書講読会の層と共通するのではないかと思います。今後、館全体の入館者数増をはかるには、この時間帯が良いのではと感じます。

事務局：開館当初は子どもが多かったのですが、年齢層が上がり、博物館活動も認知されてきて、現在は平日の活動が多くなりました。古文書講読会も今は新しい会員が入れない状態です。

事務局：確かに平日の講演会は可能なのですが、館の事業で部屋を押さえてしまうと、予約制の講堂の利用や、科学教室での日常的な活動ができなくなるなど、実は部屋が足りない状況があります。

委員：常連の会員のほかに、子どもたちが1回だけの活動ではなく、博物館とつながりができて活動を継続してゆけると良いと思います。

事務局：子どもたちが自由な時間を取りにくくなっているようですが、現在、僅かながら子ど

もの数が増えています。

委員：インターネットのHPの効果で来る方々が増えるのではないのでしょうか。

事務局：子供の事業をインターネットで募集をかけた場合、地元より市外からの応募が増えてしまうようになると、それでいいのかというジレンマも生じます。博物館はいろいろな事業をしていますので、選びやすいということはあると思います。

事務局：インターネットで募集をかけると、人口比率の面から言えば、平塚市民がいつも市外の方より少ない、という状況も考えられます。また、博物館としては相模川流域の自然と文化をうたっており、範囲を市内に限定しているわけではありませんので、難しいところです。

委員：たくさん来ていただければいい、ということではないのですね。インターネットは県だけでなく全国的なものになりますし。

事務局：時期的には夏休みなど、集中してしまう恐れもあります。

会長：ほかではそういう活動が行われていないということでしょうか。

事務局：複合館で複数分野にわたりますので、よそに負けない事業数だと思っています。

会長：そういう点では、快く市外の方を受け入れていかなければなりませんね。

委員：しょうがないですよ。評価が高く、全県・全国的な位置付けの館なのですから。

委員：そうですね。あとはお金が問題ですね。

委員：認知度を上げる手立てですが、特別展などの事前に情報を出すなど、博物館だけでなく、市の行政に対応してもらう必要があると思います。また学校教育への拡大のために、館の職員に指導主事を迎えているところもあります。市の文化行政と直結して考えていく必要があると思います。展示解説も、展示を見て満足してもらって帰っていただくことを心がけています。私自身、博物館大好き人間を作りたいと考えていますし、学芸員の皆さんも第一線で良い活動をしていらっしゃると思います。

会長：展示解説ボランティアの方々には本当に一生懸命で、よそからも評判を聞いています。

委員：能動的に関わっていく立場で、生涯学習の場として、たくさんの方々に加わっていただきたいと思います。

委員：これだけたくさんの方が関わっているということは、博物館がたくさん蒔いた種が育ってきたということですね。

事務局：博物館も発表の場や能動的に活動していく場を整備していかなければと思います。博物館まつりなども行っていますが、活動の成果をきちんと博物館のなかで活かし、フィードバックしていかなければならないと常々考えています。